2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/16

団体名	一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会	活動タイトル	児童養護施設「翼」を支える「安心・自信・自由」の地域づくり～CAP事業推進から

望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）

●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	「人権」は、一人ひとりの“生きる力”です。CAPプログラムは、子どもも大人も権利の主体として自分を認識するための重要なプログラムです。また、社会的に力を奪われている子どもたちが、“生きる力”を育んでいくためには、子どもをエンパワーする関係が前提です。とりわけ、社会的養護のもとで生きる子どもたち、差別や虐待、いじめなどより厳しい環境で生きる子どもたちには幾重にも、「あなたはかけがえのない存在」というメッセージを周囲の大人が伝え、環境整備をする必要があります。そのために、児童養護施設・学校園・地域が子どもの「安心・自信・自由」を保障することをめざして顔の見える協力関係をつくることは、望ましい社会状況に向けた第一歩です。
●団体の社会的役割（ミッション）	当協会は、「人権文化」を根付かせていくことを社会的使命としています。豊中市の委託事業者として①人権情報啓発事業、②相談事業、③こどもの学び・居場所事業の３つの柱で事業を進めています。本事業は自主事業です。 2022年1月27日付「豊中市立人権平和センターにおける人権啓発等に係る業務を委託する事業者の業務の履行状況の評価について（答申）」の総括評価において「自主事業で実施している『ドコモ市民活動団体助成事業』と連携し、積極的に事業を実施している点を評価する」と高く評価されました。 協会は豊中市の委託事業と合わせて、本事業のような自主事業を積極的に進めその使命を果たすことが期待されています。
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源： ビジョンとミッションを実現していくためには、①ミッションに基づいて諸事業をデザインしマネジメントできる力②市民、子どもへの共感力とコミュニケーション能力と問題解決能力③資金調達力④諸団体機関との調整能力⑤発信力を持つ職員の育成、協力者のネットワークが必要です。 ●望ましい物的資源： ①協会事業をきっかけに集まる市民の居場所、活動スペース②子どもの声を安心して聴けるスペース②広報活動に必要なスペース、機材 ●望ましい活動資金： ①CAPを届ける事業を継続できる事業資金、人件費②多様な市民や専門家をネットワークし、事業を展開する資金 ●望ましい情報： ①子どもを取り巻く問題について最先端の情報にアクセスし、必要なスキルを獲得する機会②ビジョンを共有する地域づくりのための考え方と具体的方法

■活動風景

CAP就学前ワーク（2023.2.20豊中市立ともだちこども園年長児）

「知らない人と話をする時は手を伸ばしても捕まれないぐらい離れようね」

第3回円卓会議（2023.3.1信行寺）

「里親経験者のお話を聴いて、グループに分かれて翼のエンパワメントについて意見を出し合いました」

■活動報告

●CAPの実施
延べ502人のおとなと子どもにCAPプログラムを届けることができた
●円卓会議、お寺びらきの実施
毎回20人を超えるさまざまな立場の人たちが集い、社会的養護について学び、翼のエンパワメントについて話し合うことができた。3回の円卓会議を経て、「お寺開き」が実現し、翼の子どもたちと目一杯遊びを楽しんだ。
●おにぎり大会、おやつ作り
延べ181人の子ども、おとなが、「食」を通して交流ができた。
●映像制作講座
20人の子どもと13人の大学生でそれぞれグループに分かれて１分の動画を作成した。自分からはなかなか発言ができなかった子が大学生のサポートのおかげで活動に参加することができた。
●廃材ワークショップ
大阪音楽大学の先生の協力のもと、段ボールや米袋、ペットボトルなどを使ったモノづくりの楽しさに触れることができた。

■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)

●CAPの実施
おとな10件　こども6件　延べ人数502人　2021年度報告書1000部発行
●円卓会議の実施
①5回開催　延べ100人　②目標アウトカム「月１回のお寺開きが実現」
●お寺開き
①4回開催　延べ80人
●おにぎり大会
①３回開催　延べ161人
●おやつ作り
①２回開催　延べ28人
●映像制作講座
①１回開催　33人　②目標アウトカム「５本の動画を作成」
●廃材ワークショップ
①2回開催　延べ40人

■事業を通じて得られたノウハウ

●円卓会議参加者のメーリングリストを作成し、速やかに連絡を取ることができた。
●今回、「翼を支える『安心・自信・自由』の地域づくり」において、当団体のような地域に拠点を持つ団体とCAP実践団体と協働でCAPプログラムを児童養護施設、こども園、小学校、中学校に届けてきた。その取り組みを通して、学校や園とプログラム実施者（CAPグループ）との間で、学校園のニーズの把握、事前説明、広報、当日の運営、資料準備、振り返り、アンケートの整理と課題の抽出などの作業を経験した。その活動を通して、当団体が地域でCAPプログラムを進めるためのコーディネーターとしてのノウハウを蓄積できた。児童養護施設、こども園、小学校、中学校の教職員とコミュニケーションをもつことで、それぞれの学校園がいま、取り組む課題についても学び理解する機会になっている。
●CAPの取り組みによる学校園との繋がりや、おにぎり大会での繋がりをベースに、円卓会議を二か月に一回のペースで実施した。毎回、子どもを中心に据えた多角的な視点での話題提供者（J-CAPTAチーフディレクター、翼スタッフ、里親、児童養護施設運営者、社会福祉法人みとい製作所理事長）からのお話をヒントに翼のエンパワメントについてグループで話し合いを行うなかでさまざまな提案が出された。毎回20人近い参加があり、３回目の円卓会議実施後に、「お寺開き」の開催につなげることができた。協会が拠点となり事業を実施したことで、市民一人ひとりの「地域を巻き込むチカラ」の大きさを知ることができた。
●映像制作や廃材を使ったワークショップを実施したことによって、子どもたちがモノづくりの楽しさや喜びを実感し、みんなでチカラを合わせて作り上げることで自信をもつことができるようになった。

■望ましい社会状況を達成するための課題

●児童養護施設「翼」が校区に開設して5年を迎えたものの、翼を知らない市民が多いため、社会的養護の現状や課題を学ぶ機会の提供が必要であると把握した。
また、児童養護施設から自立する子どもたちの支援についても今後考えていかなければいけないことを把握した。

●翼のエンパワメントを考えるうえで、円卓会議を継続していくことが最重要であることが確認できた。

●長年、地域に根差した団体ではあるが、まだまだ知名度は低いため、協会を知ってもらうアピールが必要であることを把握した。

■活動成果のアピールポイント（自由記入）

この1年間の活動を通じて	**翼を支える円卓会議５回（延べ100人）、お寺びらき4回（延べ80人）、CAP16件502人に実施**	**を達成しました。**

■受益者の具体的な変化（自由記入）

・翼、こども園、中学校から「来年もぜひCAPを実施してほしい」「継続的な実施があればいい」との意見が寄せられた。
・おにぎり大会には毎回20人近いボランティアの参加があり、円卓会議にも多種多業種（学校園、里親、地域市民、民生委員、音大教授など）の方が参加してくれた。